

改革の旗印下ろすな

〈民主党の小沢一郎元代表は、政治資金問題で国会招致に応じよう党から求められたが拒否している。野党が態度を硬化し、国会審議の停滞も懸念される中、小沢氏主宰の政治セミナー「小沢一郎政治塾」の委員長を務める大久保潔重氏に見解を聞いた〉
そもそも小沢さんへの強制起訴議決に大きな疑問を感じる。検察が2度にわたって不起訴にしたにもかかわらず、検察審査会が覆した。国益を左右する人の処遇を一般の方に委ね、メンバーや協議内容は非公開。マスコミ報道に誘導される部分もあるだろう。審査会の在り方を含め論議が必要ではないか。
それはそれとして、小沢さんは「逃げない」「やましいことはない」と言っており、私も無罪だと信じている。三権分立の下、説明責任を果たす場は司法に移ったのだから、そこで肅々とやればいい。「野党がうるさ

「小沢一郎政治塾」委員長



「国難の時期」にこそ小沢氏のリーダーシップが必要だと語る大久保氏
＝諫早市内の事務所

大久保 潔重氏 (民主・参院長崎選挙区)

永田町発

ながさき

国会議員に聞く

んはそこに労力を注がねばならず、政治の表舞台で力を発揮できないのは国益を損なう。尖閣諸島や北方領土の問題など、自民政権が先送りした部分のツケではあるものの、現政権与党としてきちっと対応すべきだ。だが実際は方向性がはっきりせず、現場で対応を迫られている。消費税をめぐる菅直人首相のうかつな発言が、今年夏の参院選敗北の一因になったが、環太平洋連携協定(TPP)も似たような状況にある。これから何か事あるごとに国民が不満を募らせ、補正予算を通せないまま政権は行き詰まる恐れもぬぐえない。こうした国難の時期こそ多少あくが強くても、強力なリーダーシップを持つ人物が求められる。

い」との理由で衆院政治倫理審査会に引っ張りだしても意味がなく、余計紛糾しかねない。ただ、地域経済対策の意味合いが強い補正予算の一日でも早い成立が担保されるのであれば、小沢さんは国会招致に応じるはず。党執行部が野党と信頼関係を築き、そういう形で環境を整備しなければならぬ。

小沢体制の下、3年前の参院選、昨年夏の衆院選を経て政権交代を成就した。そこで掲げた「政治主導」「地域主権」「国

公判が長期に及べば、小沢さ

の旗印は下ろしてはならない。
(聞き手は報道部・後藤敦)